

第 46 回日本フィッション・トラック研究会実施報告

伊藤久敏




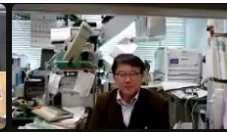




















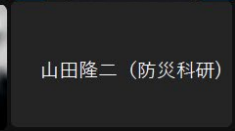
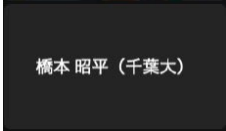




第 46 回日本フィッション・トラック (FT) 研究会は、ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会として、2022 年 2 月 21 日 (月) の全日と 22 日 (火) の午前に、Zoom を用いたオンラインにて開催されました。金沢大学の「しいのき迎賓館」での現地とオンラインのハイブリッド方式で開催すべく、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染状況を注視していましたが、開催一週間前でもオミクロン株の感染状況が収まらなかったため、昨年引き続き、完全オンラインでの開催となってしまいました。

合計 25 件の発表があり、セッションを 5 つに分け、発表会が行われました。全ての発表を紹介することは困難なので、ここでは、私の独断でいくつかの発表を紹介します。FT 法に関する発表としては、アパタイトの FT 法の適用に関する発表が 2 件ありました (発表番号④, ⑤)。いずれも、中国・四国地方を対象としており、この地域の削剥・上昇史の理解が深まることが期待されます。また、バデリアイト (ZrO_2) のエッチングに関する発表がありました (②)。通常のエッチングではトラックが観察されず、その原因としてアモルファスな領域が生じていないことが考えるとのことでした。さらに、アルファリコイルトラックに関する発表 (③) では、人工線源によるアルファリコイルトラックを白雲母上で観察することに成功したことが報告され、ジルコンでの適用に一步近づいたとの感想を持ちました。

(U-Th)/He 法 (He 法) は、現在、原子力機構において、我が国で唯一、研究が行われていますが、今回は、ジルコンの融解に関する発表 (⑦)、年代標準試料に関する発表 (⑧) 等がありました。また、ジルコンの U-Pb 法の適用に関する発表が 4 件 (⑨, ⑪, ⑬, ⑭)、U-Pb 法、FT 法、He 法等のマルチ年代測定に関する発表が 3 件 (①, ⑥, ⑩) ありました。

ルミネッセンスに関する発表は 6 件 (⑬, ⑰, ⑲, ⑳, ㉑, ㉒)、ESR に関する発表は 3 件 (㉓, ㉔, ㉕) でした。その他、角閃石の圧力計に関する発表 (⑫)、 ^{210}Pb を用いた堆積年代に関する発表 (⑮)、月面での水を分析する装置の開発に関する発表 (⑱) などの刺激的な発表がありました。

参加者人数は、Zoom のカウント数から 41 名でした。研究会終了時には、Zoom 上で記念写真を撮り、次回は現地で直接会えることを望みながら閉会となりました。最後になりますが、今回、会場の確保や Zoom のホスト等で金沢大学の長谷部徳子会員には大変お世話になりました。ここに改めてお礼申し上げます。

				
				
				
				
				
				山田隆二 (防災科研)
橋本 昭平 (千葉大)	中嶋_JAEA	佐久間幹(TCC)	藤原寛_富山大	鳥田_JEOL RESONAN...
M. Ogata (JAEA)	 三浦知督 (金沢大)	天野英樹 (HSS)	小森_東大院	岡本彩香 (千葉大学)
林広樹 (鳥根大)	壇原徹	渋谷侑磨 (金沢大)	田中 (東北大)	Yasuhiro Ogita
中村敏和 (分子研)				

第 46 回日本フィッション・トラック研究会総会実施報告

伊藤久敏

第 46 回日本フィッション・トラック (FT) 研究会総会は、2022 年 2 月 21 日 (月) 17:10 ~17:30 にオンラインにて、以下の内容で実施されました (以下、敬称略)。

1. 出席会員数の確認： 普通会員 16 名の出席と委任状 12 名分が得られたことから、普通会員 (66 名) の 1/5 以上の出席および委任状をもって、総会は成立することを確認した。
2. 今年度の活動報告： ①FTNL 第 34 号の Web 公開と発刊, ②第 46 回 FT 研究会 (ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会) の開催, ③FT 研究会の HP の更新, ④国際会議の状況 (Thermo2021 Santa Fe 大会, Thermo2025 金沢大会の招致) を報告した。また、2 名の新入会員 (石川法人, 長田充弘: ともに原子力機構) を報告した。
3. 2020 年度の会計報告 & 会計監査報告： 2020 年度の収入は繰越金 (571,838 円) を含め、631,842 円、支出は 51,508 円であり、差額の 580,334 円を次年度に繰り越すことが報告され、監査報告 (今回は Zoom 上での領収書開示で対応) とともに承認された。
4. 次年度の執行部体制： 次年度 (2022 年度) の執行部は、会長として、伊藤久敏 (電中研) から大平寛人 (島根大) へ、委員 (庶務) として、山田隆二 (防災科研) から伊藤久敏 (電中研) へ、檀原有吾 (京都 FT) から福田将真 (原子力機構) への交代が承認された。他の委員は留任することが承認された。
5. 次年度の活動計画： 以下の活動計画が承認された。①FTNL 第 35 号は 2022 年 10 月発行に向けて活動する、②第 47 回 FT 研究会は ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会と合同で開催する。なお、開催時期は、11 月下旬頃が良いとの意見があった。開催地としては、コロナが落ち着けば、徳島大が引き受け可能とのことが紹介された。

総会出席者 (16 名: 五十音順) :

伊藤久敏, 大平寛人, 小形 学, 岡本 晃, 梶田侑弥, 末岡 茂, 田上高広, 谷 篤史,
田村明弘, 中嶋 徹, 長田充弘, 長谷部徳子, 福田将真, 南 沙樹, 村松敏雄, 山中千博

委任状提出者 (12 名: 五十音順) :

安間 了, 猪又 竜, 岩野英樹, 雁沢好博, 白井香奈江, 竹内圭史, 檀原 徹, 檀原有吾,
林 広樹, 藤原 寛, 松浦秀治, 山崎誠子